

令和7年度（2025年度）

宝塚市下水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



目 次

1. 予算編成方針	．．．．．	1
2. 業務の予定量	．．．．．	1
3. 予算の規模	．．．．．	1
4. 予算の詳細	．．．．．	2
5. 主要施策（雨水事業）	．．．．．	4
6. 主要施策（汚水事業）	．．．．．	5
7. 管路の耐震化の状況	．．．．．	6
8. 主な経営数値	．．．．．	7
9. 職員の内訳	．．．．．	8

1. 予算編成方針

水道の料金改定について、急激な負担の増加を緩和するため設けた1年間の経過措置期間が終了します。国内外の社会情勢の変化による物価上昇が依然として続く中で、使用者にとってはさらなる負担の増加となるため、今後、徹底した経営の改革と健全化が求められています。そのため、行うべき事業の内容・金額・時期を多方面から検討し、これまで以上に無駄のない経営に努めます。

持続可能な下水道事業の実施に向け、令和3年8月に見直しを行った宝塚市下水道事業経営戦略に計上した「浸水対策事業」や「武庫川ポンプ場改築事業」「重要な污水管路の更新事業」を事業の基礎としつつ、デジタル技術等を活用した取組を行います。

2. 業務の予定量

(1) 年度末水洗化人口 223,125人

(2) 年間有収水量 22,360,265 m^3

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき令和7年度の推計人口を算出し、それに宝塚市の推計人口と住民基本台帳の人口との差を加味しています。

過去の有収水量を用途別に相関分析することにより、令和7年度の年間有収水量を計上しています。

(人)

	水洗化人口	増減
令和3年度(決算)	227,864	-
令和4年度(決算)	226,429	$\Delta 1,435$
令和5年度(決算)	224,790	$\Delta 1,639$
令和6年度(予算)	224,970	180
令和7年度(予算)	223,125	$\Delta 1,845$

(m^3)

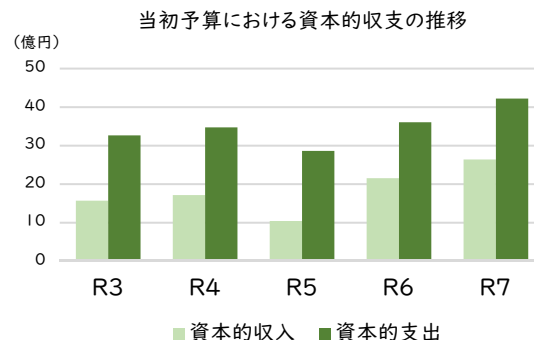
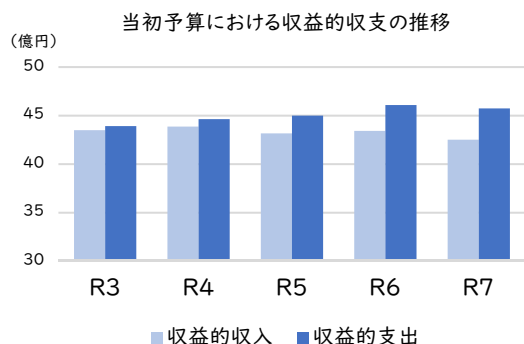
	有収水量	増減
令和3年度(決算)	23,444,797	-
令和4年度(決算)	22,965,897	$\Delta 478,900$
令和5年度(決算)	22,675,126	$\Delta 290,771$
令和6年度(予算)	22,815,227	140,101
令和7年度(予算)	22,360,265	$\Delta 454,962$

3. 予算の規模

令和7年度の支出総額(収益的支出と資本的支出の合計額)は約88億円で、令和6年度の当初予算と比較して約6億円増加しています。

収益的収支については、有収水量の減少などの影響から収益的収入の予算規模は右肩下がりとなっています。一方で、収益的支出は、物価高騰などの影響も続いており、前年度とほぼ同程度(微減)の約46億円を見込んでいます。

資本的収支については、浸水対策、武庫川ポンプ場の改築、重要な污水管路の更新などにより前年度(令和6年度)と比較して、建設改良費が約7億円増加しています。また資本的収入についても、引き続き国庫補助金等を活用した財源の確保に積極的に取り組む予算編成としています。



4. 予算の詳細

(1) 収益的収入及び支出

(千円)

区 分		令和7年度（当初）	令和6年度（当初）	増 減	前年比（％）	備考
収 入	1 営業収益	3,076,449	3,153,774	△ 77,325	97.5	
	（下水道使用料）	（ 2,375,017）	（ 2,436,895）	（ △ 61,878）	（ 97.5）	※ 1
	（雨水処理負担金）	（ 693,654）	（ 707,912）	（ △ 14,258）	（ 98.0）	※ 2
	（他会計負担金）	（ 7,111）	（ 6,870）	（ 241）	（ 103.5）	
	（その他営業収益）	（ 667）	（ 2,097）	（ △ 1,430）	（ 31.8）	
	2 営業外収益	1,174,610	1,187,759	△ 13,149	98.9	
	（国庫補助金）	（ 28,250）	（ 25,500）	（ 2,750）	（ 110.8）	
	（他会計負担金）	（ 52,067）	（ 55,233）	（ △ 3,166）	（ 94.3）	
	（他会計補助金）	（ 392,893）	（ 398,429）	（ △ 5,536）	（ 98.6）	
	（長期前受金戻入）	（ 696,224）	（ 703,619）	（ △ 7,395）	（ 98.9）	
	（その他営業外収益）	（ 5,176）	（ 4,978）	（ 198）	（ 104.0）	
	3 特別利益	331	301	30	110.0	
（固定資産売却益）	（ 1）	（ 1）	（ 0）	（ 100.0）		
（過年度損益修正益）	（ 330）	（ 300）	（ 30）	（ 110.0）		
計		4,251,390	4,341,834	△ 90,444	97.9	
支 出	1 営業費用	4,216,657	4,236,053	△ 19,396	99.5	
	（人件費）	（ 172,602）	（ 164,648）	（ 7,954）	（ 104.8）	
	（修繕費）	（ 263,400）	（ 243,355）	（ 20,045）	（ 108.2）	※ 3
	（委託料）	（ 194,158）	（ 244,376）	（ △ 50,218）	（ 79.5）	※ 4
	（負担金）	（ 170,616）	（ 186,796）	（ △ 16,180）	（ 91.3）	
	（流域下水道維持管理費）	（ 1,231,704）	（ 1,203,309）	（ 28,395）	（ 102.4）	※ 5
	（減価償却費）	（ 2,124,077）	（ 2,132,040）	（ △ 7,963）	（ 99.6）	
	（その他）	（ 60,100）	（ 61,529）	（ △ 1,429）	（ 97.7）	
	2 営業外費用	345,823	361,238	△ 15,415	95.7	
	（支払利息）	（ 205,823）	（ 201,238）	（ 4,585）	（ 102.3）	
	（消費税）	（ 110,000）	（ 135,000）	（ △ 25,000）	（ 81.5）	※ 6
	（その他営業外費用）	（ 30,000）	（ 25,000）	（ 5,000）	（ 120.0）	
	3 特別損失	1,501	1,501	0	100.0	
	（固定資産売却損）	（ 1）	（ 1）	（ 0）	（ 100.0）	
	（過年度損益修正損）	（ 1,500）	（ 1,500）	（ 0）	（ 100.0）	
4 予備費	10,000	10,000	0	100.0		
計		4,573,981	4,608,792	△ 34,811	99.2	
収 支 差 引		△ 322,591	△ 266,958	△ 55,633		

※1 (減額理由) 人口減少及び節水機器の普及等による有収水量減少のため。

※2 (減額理由) 調整池維持管理費の減少額13,928千円などのため。

※3 (増額理由) 公共下水道維持管理の増加額21,242千円などのため。

※4 (減額理由) 事業計画等策定業務委託の減少額 35,757千円、調整池維持管理費の減少額 13,928千円などのため。

※5 (増額理由) 猪名川流域下水道における委託料の増額などのため。

※6 (減額理由) 建設改良費等の増加により負担する消費税額の減少が見込まれるため。

(2) 資本的収入及び支出

(千円)

区 分		令和7年度(当初)	令和6年度(当初)	増 減	前年比(%)	備考
収 入	1 企業債	2,302,650	2,017,900	284,750	114.1	※7
	2 国庫補助金	259,000	45,000	214,000	575.6	※8
	3 他会計負担金	76,302	88,927	△ 12,625	85.8	
	4 工事負担金	2,301	2,751	△ 450	83.6	
	5 水洗便所改造資金回収金	570	670	△ 100	85.1	
	計	2,640,823	2,155,248	485,575	122.5	
支 出	1 建設改良費 (事務費)	2,150,279 (63,296)	1,473,439 (64,677)	676,840 (△ 1,381)	145.9 (97.9)	※9
	(公共下水道整備費)	(1,775,747)	(1,123,947)	(651,800)	(158.0)	
	(流域下水道整備費)	(224,613)	(198,557)	(26,056)	(113.1)	
	(固定資産購入費)	(86,623)	(86,258)	(365)	(100.4)	
	2 企業債償還金	1,930,292	2,121,352	△ 191,060	91.0	※10
	3 他会計長期借入金償還金	130,000	0	130,000	皆増	※11
	4 貸付金	1,080	1,080	0	100.0	
	5 予備費	10,000	10,000	0	100.0	
	計	4,221,651	3,605,871	615,780	117.1	
	収 支 差 引	△ 1,580,828	△ 1,450,623	△ 130,205		

資本的収支不足額1,580,828千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※7 (増額理由) 雨水事業に係る借入額が334,500千円増加したため。

※8 内容は以下のとおりです。

武庫川ポンプ場改築事業に係る補助金139,000千円

污水管路等更新事業に係る補助金120,000千円

※9 主な内容は以下のとおりです。

浸水対策事業 723,700千円 (詳細は4ページに記載)

武庫川ポンプ場改築事業 278,000千円 (詳細は4ページに記載)

管路等更新事業 260,300千円 (詳細は5ページに記載)

重要な污水管路の更新事業 423,000千円 (詳細は5ページに記載)

未水洗化区域施設整備事業 53,700千円 (詳細は5ページに記載)

※10 (減額理由) 公共下水道企業債の償還が244,423千円減少したため。

※11 (増額理由) 水道事業会計からの借入金、返済のため。

5. 主要施策（雨水事業）

（１）浸水に対する取組

① 浸水対策事業（予算額723,700千円）

近年頻発しているゲリラ豪雨にも耐えられるよう、雨水排除能力の強化に取り組めます。

場所	内容
向月町	雨水排水施設の強化 補強管布設工事（φ1800）L=200m
星の荘	雨水排水施設の強化 補強管布設工事（φ800）L=200m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



② 調整池維持管理事業（予算額 7,400千円）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図ります。

場所	内容
すみれが丘1丁目	土砂浚渫 400㎡

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料



（２）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業（予算額 296,625千円）

昭和50年の運用開始から45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、耐震補強工事に併せて改築を行います。

場所	内容
武庫川町	ポンプ場施設の耐震補強による第1期改築工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費（278,000千円）

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費（18,625千円）



（３）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額 38,095千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
山本地区等	水門ゲートのクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



6. 主要施策（污水事業）

（１）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業（予算額 291,800千円）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を行い、調査結果を踏まえて改築を行います。

場所	内容
市内一円	コンクリート管 改築工事 L = 1200m
中筋地区	ストックマネジメント計画に基づくTV カメラ調査 L = 10,000m



予算：収益的支出＞営業費用＞委託料（31,500千円）

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費（260,300千円）

（２）耐震化の取組

① 重要な污水管路の耐震化事業（予算額 423,000千円）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路について耐震化工事を行います。

場所	内容
伊子志2丁目外	管更生工事（既設コンクリート管 φ1000） L = 1,180m



予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（３）未水洗化区域解消の取組

① 未水洗化区域施設整備事業（予算額 53,700千円）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるよう、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組みます。

場所	内容
千種1丁目 外	污水管路布設工事（φ200） L = 300m



予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（４）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額 27,328千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
市内一円 (14箇所)	污水流量計のクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



7. 管路の耐震化の状況

(1) 重要な汚水管路の耐震化率

損傷した場合に使用者への影響が大きい汚水管路、社会的影響が大きい緊急輸送路や軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率です。

令和6年度は中筋汚水幹線（延長L＝105.0m）の耐震化に取り組みました。宝塚汚水幹線については令和6年、7年に工事を分割しましたが、令和6年度分の工事に時間を要し、繰越となることから、目標値を17ポイント下回る見込みです。なお、最後の路線である宝塚汚水幹線についての詳細設計は完了しており、令和7年度には目標値を達成する予定です。

（管路延長 L=6,900m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 （見込）	令和7年度末 （見込）
目標値（％）	57.9	68.4	79.0	89.5	100
実績値（％）	56.9	64.1	71.0	72.5	100

(2) 汚水管路の耐震化率（全管路対象）

汚水管路総延長に対する耐震汚水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施していますが、令和6年度は1.2ポイント、令和7年度は2.5ポイント、目標値を下回る見込みです。今後も確実に汚水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

（全管路延長 L=528,675m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 （見込）	令和7年度末 （見込）
目標値（％）	21.4	22.4	23.3	24.2	26.2
実績値（％）	21.2	21.4	22.6	23.0	23.7

※ 目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

8. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%超で利益が生じています。全国平均105.9%、類似団体平均107.0%（令和5年度）と比較すると、本市の数値は低くなっており、令和7年度は100%を下回る見込みです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
経常収支比率(%)	99.6	102.2	100.8	100.3	96.0

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和6年度は黒字を維持する一方、令和7年度はわずかに赤字となる見込みとなっています。未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。なお、令和3年度に純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
当年度純利益(千円)	0	119,829	39,232	12,727	△170,537
未処分利益剰余金(千円)	2,598,940	2,718,769	2,758,001	2,770,728	2,600,191

(3) 借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和7年度以降、企業債償還元金の減少により資金不足が解消され、それまでの借入金を少しずつ返済できる見込みです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
借入金残高(千円)	970,000	1,270,000	1,570,000	1,570,000	1,440,000

(4) 汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は1m³あたりの平均収益、汚水処理原価は1m³の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
使用料単価(円)	96.6	91.8	96.8	96.1	96.6
汚水処理原価(円)	112.3	114.4	116.1	117.2	125.9
差引(円)	△15.7	△22.6	△19.3	△21.1	△29.3

9. 職員の内訳

平成30年度（実績人数）から令和6年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和5年度にストックマネジメント計画を円滑に推進するために技術職員を1名増員しています。

（人）

平成31年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	11	1	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	13	1	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	13	1	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	15	1	22
令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	16	0	22
令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	3	0	4
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23
令和6年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	4	15	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	5	17	0	22
令和7年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	15	0	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23

※ 平成31年度から令和6年度までは実績人数、令和7年度は予算措置人数